

道路や駐車場などの消雪設備の節水対策について

地下水を利用した消雪設備を新設する際には、交互散水方式などの節水型散水方式の採用、降雪検知器（スノーセンサー）の設置など、節水対策を講じましょう。

対策① 単位散水量の調整

散水量が多すぎると、水が路面に溜まり、歩行者へ迷惑となるとともに、貴重な地下水も無駄になります。適切な散水量となるようなポンプ選定、バルブ・ノズル調整を行いましょう。

☆散水量の目安

車道

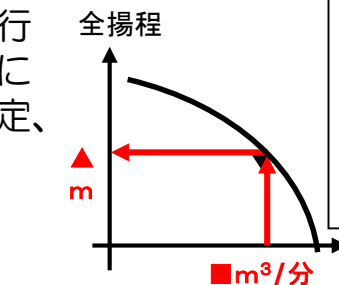
1㎡あたり 0.25 ℓ/分

歩道・駐車場その他

1㎡あたり 0.3 ℓ/分



過剰な散水



ポンプ選定の際には、必要な揚水能力、揚程を確認し、できる限り性能曲線上で運転するようにしてください。



適切な散水

対策② 降雪検知器の設置

降雪検知器を取り付けることで、雪が降った場合にのみ設備を稼働させることができ、節水・節電につながります。

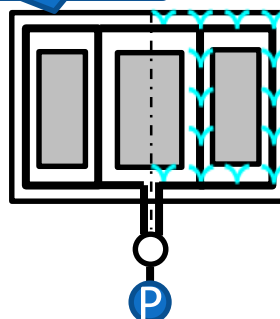


降雪検知器の一例

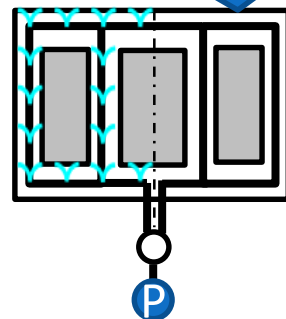
対策③ 節水型散水方式の採用

地下水の有効利用を行う観点から、原則交互散水方式としましょう。

A区間停止



B区間停止

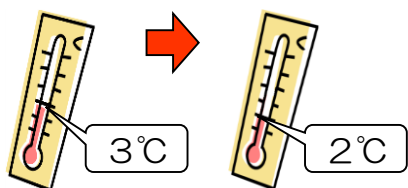


一定時間後

対策④ 作動温度の適切な設定

降雪検知器の設定温度が高い場合、降雪がなくても稼働してしまい、無駄な散水となる場合があります。適切な温度設定を行いましょう。

気温の設定 3℃ ⇒ 2℃ に変更



対策⑤ 残雪処理時間の短縮

雪が止んでから散水停止までの時間を長くすると、雪が止んでも散水が続きます。

適切な時間設定を行いましょう。

残雪処理時間 30分 ⇒ 10分に変更

